

# 政治経済学部 秋の講演会2009

主催：政治経済学部

## 「ジャーナリズムの展望 — 報道に求めるもの —」

新しいメディアの台頭を受け、民主主義の形も大きく変化した。それと共にジャーナリズムも多くの課題に直面している。時代の証言者として多くの現場に立ち会ってきた二人のジャーナリスト、斎藤貴男氏と若宮啓文氏がそれぞれの立場から提言を行う。二回の講演会での議論をふまえて、ジャーナリズムにどのような展望が開示されるのだろうか。

### 講演者プロフィール



#### 斎藤 貴男

フリージャーナリスト

1958年生まれ。早稲田大学商学部卒、英国・バーミンガム大学大学院修了。『週刊文春』などの記者を経てフリーになる。社会・経済・教育など幅広い問題を取り上げ、近年は格差社会や憲法問題についても精力的に発言し続けている。『ルポ改憲潮流』、『憲法が変わっても戦争にならないとと思っている人のための本』（高橋哲哉氏との共著）、『教育改革と新自由主義』、『「治安国家」拒否宣言——「共謀罪」がやってくる』（沢田竜夫氏との共著）、『住基ネットの〈真実〉を暴く——管理・監視社会に抗して』、『報道されない重大事』、『メディア@偽装』、『「心」が支配される日』など多数。



#### 若宮 啓文

朝日新聞コラムニスト  
東京大学大学院客員教授

1948年東京生まれ。70年に東大法学部卒業、同年朝日新聞社入社。政治部記者、論説委員、政治部長などを経て02年9月に論説主幹に就任し、社説作りの責任者となる(08年3月まで)。その間、小泉訪朝、イラク戦争、郵政解散、安倍内閣の誕生と退陣など歴史的な出来事が続発。小泉首相の靖国神社参拝批判で読売新聞主筆の渡辺恒雄氏と共闘し、月刊『論座』での二人の対談は大きな反響を呼んだ。著書に『和解とナショナリズム——新版・戦後保守のアジア観』、『右手に君が代 左手に憲法——漂流する日本政治』、『闘う社説——朝日新聞論説委員室2000日の記録』など。

コーディネータ：森分 大輔（本学政治経済学科特任講師）

# 12月2日(水)11:00~12:30

会場：聖学院大学チャペル 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

(JR高崎線宮原駅よりスクールバスで7分、またはJR埼京線西大宮駅よりスクールバスで10分)



Love God and Serve His People

# 聖学院大学

【お問合せ先】 企画総務課

事前申込は不要です。

TEL. 048-781-0925

FAX 048-726-2962

http://www.seigakuin.jp E-mail pru@seig.ac.jp